

がんを知り、がん備え豊かで明るい長寿社会へ

現在日本では、2人に1人は一生のうち何らかのがんにかかると言われ、がんの患者数は年々増加しています。当社は「あなたの未来を強くする」というブランドメッセージのもと、がんの不安からお客さまを守るため、進歩するがん治療を切れ目なくカバーする商品の提供に加え、がんについて正しく知っていただくための情報提供と啓発活動を通じて、健康な人生・豊かで明るい長寿社会の実現に貢献していきます。



がんの不安からお客さまを守るための取組み

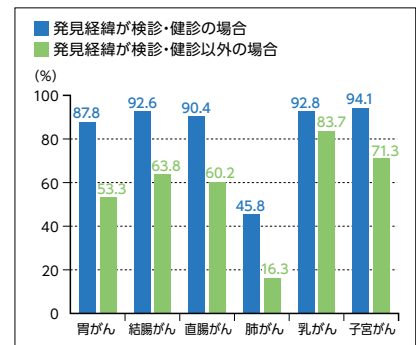
がんは早期発見や早期治療ができれば、治癒する可能性が高くなる疾患で、生存率も高まります。早期発見にはがん検診が重要な役割を果たしますが、日本のがん検診の受診率は20~30%と低く、国のがん対策推進基本計画において受診率を50%にまで高めることが目標とされています。

がんの治療方法は進化し続けており、従来は入院を伴う治療が一般的でしたが、副作用の少ない抗がん剤の登場により、外来での抗がん剤治療が増えています。がんの痛みを和らげる疼痛緩和ケアも、生活の質を重視する観点から、がんの治療と並行し

て行われるようになりました。こうしたがんを取り巻く環境の変化にあわせて、当社では、これまでのがん給付関連商品に加え、がん保障特約「がんPLUS」によって、早期がんから進行がんまで、さまざまな治療を切れ目なくカバーできる商品を提供し、お客さまが安心して治療を受けられるよう、経済面での保障を行っています。

こうした本業での取組みに加え、がんへの不安を解消し、がん備えていただくためには、正しい情報を知っていただくことが大切と考え、がんの情報提供や啓発活動にも力を入れています。以下に、当社の取組みをご紹介します。

■検診・健診とそれ以外で発見されたがんの5年生存率



公益財団法人がん研究振興財団「がんの統計'05」

がんの正しい情報をお伝えする啓発冊子「知っておきたいがんのこと」

当社は、がんについての正しい情報を提供するため、独立行政法人国立がん研究センター監修による啓発冊子「知っておきたいがんのこと」をこれまでに77万冊発行いたしました。がんの基礎知識や治療内容・費用、相談窓口、患者の声など幅広い情報を掲載しています。本冊子は、日本全国にある支社・支部のネットワークを活かし、営業職員を通じて、お客さまに配布しています。

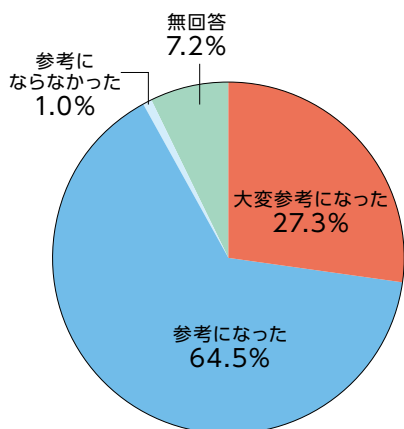
お客さまへのアンケート調査では、多くの方から本冊子が「参考になった」という回

答があり、「今までがん検診を受けたことがなかったが、早期発見するために受けようと思った」との声いただきました。さらに、冊子で取り上げてほしい内容として、「臓器ごとの治療方法」や「患者体験をもっと知りたい」などのご要望があったことから、部位別の治療内容や新たな体験談を盛り込み、読みやすさを高めた改訂版を平成26年6月に発行しました。

今後もより多くの皆さまにがんについて正しく理解をしていただけるよう、お客さまの声に耳を傾け、情報提供していきます。



「知っておきたいがんのこと」は参考になりましたか？



*調査方法:当社営業職員を通じたアンケート調査
 *調査期間:平成25年10月～平成25年12月
 *有効回答数(n):1,114

お客様の声

- ・早期発見できれば生存率が高いと知ったので、定期的に健康診断とがん検診を受けようと思います(40代女性)
- ・緩和ケアについて参考になった(60代男性)
- ・体験談を読んで「もし自分だったら…」と考えさせられました(30代女性)
- ・質の高い治療を受けることのできる病院が知りたい(50代女性)
- ・乳がんの検診や手術について知りたい(20代女性)
- ・先進医療について取り上げてほしい(50代男性)

営業職員の声



北九州支社 田川南支部 所長
松岡朋子

この「知っておきたいがんのこと」は中高齢の方から、病気には関心の薄い若い方まで幅広くお届けすることを心がけています。この「知っておきたいがんのこと」を読んでいただくことによって、がんの予防方法や治療方法について知っていただき、がんに対して前向きに考えていただくきっかけになればと思っております。

今後も最新の情報を提供し、少しでも皆さまのお役に立てるよう、たくさんの方へお届けしていきます。

その他のがん啓発活動

啓発冊子「知っておきたいがんのこと」に加えて、ホームページにおいて「がんに関するQ&A形式動画」や、健康に役立つ情報を掲載したポータルサイト「健康応援Navi」を設け、広く皆さまへの情報提供に努めています。また、乳がんセミナーや粒子線セミナーを全国各地で開催しています。加えて、公益財団法人日本対がん協会が

健康応援Navi

http://www.sumitomolife.co.jp/about/health_navi/

がんに関するQ&A形式動画

<http://www.sumitomolife.co.jp/lineup/movie/>

主催する、がん征圧を目指したチャリティウォークイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」を支援しています。

啓発活動の他にも「がん患者とご家族の心をケア」を目的に特定非営利活動法人がんサポートコミュニティーを支援しています。



リレー・フォー・ライフ・ジャパン

<VOICE>



国立がん研究センター がん対策情報センター
センター長
若尾文彦氏

国立がん研究センターでは、webサイト「がん情報サービス(ganjoho.jp)」やがんの啓発冊子などを通して、がん患者さんやご家族、国民の方々へ正しいがん情報を届けることを目指しています。しかし、私どもだけでは、なかなか病院の外にまで、十分に情報を届けることはできません。そこで、平成25年3月、住友生命と「がん情報の普及啓発に向けた包括的連携に関する協定」を締結し、情報冊子「知っておきたいがんのこと」「がんに関するQ&A形式動画」などを共同で製作し、住友生命の営業職員の方によって、全国の幅広い年齢層の方々に届けていただいております。

がんにかかっていない方に正しいがん情報を伝え、がんを自分事としてとらえていただき、予防を心掛ける、がんと診断されてもあわてないで適切に対応する、そのような行動に繋げることができれば、良いと考えております。

女性がいきいきと働き続けることのできる職場

当社ではこれまで多くの女性が活躍し、会社の成長を担ってきました。これからも女性が長くいきいきと働くことのできる環境づくりに注力していきます。またそのことにより、豊富な知識と経験を社内へ蓄積させ、お客さま視点の商品やサービスを提供し、お客さまの未来を強くすることのできる会社を目指していきます。

住友生命では誰もが活躍できる場があります。

「私は営業職には向いていないと思っていたのですが、住友生命の営業職員の方に熱心に誘われ入社を決めました」そう話す吉岡は、入社後、充実した研修を通じて保険のことを知れば知るほど、世の中の人に保険の大切さを伝えなければという思いが募ったと言います。そういった真摯な気持ちでお客さまと接しているうちに信頼関係が生まれ、契約してくださるお客さまも増えました。契約実績を伸ばし、上司や部下から信頼されていた吉岡は、わずか1年で所長を任せられます。所長の役割は新しい仲間を増やし育てること。そこで心がけたのは、尊敬できる人と仕事すること。尊敬できる人を自ら誘い入れ、チームのレベルを高めていったのです。

5年目には支部長となりその後、営業部長、支社長も任せられました。「これまで、順風満帆だった訳ではなく、大きな病気で休職することもありました。『戻ってくるのを待っているから』と励ましてくれた上司の言葉は本当にありがたく、もう一度頑張るきっかけになりました。自分で何ができるかわかりませんが、自分の姿が、全国に3万人いる営業職員の旗印となれるかもしれないと思ったのです。」と振り返ります。

仕事一筋に思えますが、シングルマザーとして3人の子育てにも手を抜くことはありませんでした。「何のために働いているのかを考えたとき、私は家族のためというのが第一です。子どものことを疎かにしては意味がありません。女性が仕事をするときには、そういう失敗をしがちなのですが、大切なことを見失わないようにと部下にも伝えていきます。



限られた時間の中でいかに効率よく仕事をするかを考え、無理をしないように続けてきました。」そして、子どもたちには自分のありのままの姿を見せてきたと言います。「家族に営業成績を報告し、頑張った時も頑張れなかった時も、自分が仕事をする姿をそのまま見せていました」。

当社には女性が長く活躍してきた歴史があります。「手厚い福利厚生制度が整っていて、一職員にも活躍の機会を与えてくれる会社です。生命保険は、何十年にもわたりお客さまを守り続けるものですから、若い人たちを育て、活躍できる環境をつくり、お客さまの未来を守るためのバトンをつないでいきたいです。」と今後に向けた決意を語ります。

吉岡美智子

久留米支社 支社長

昭和63年に営業職員として宮崎支社に入社。日向支部長、宮崎県北営業部長、営業人事部(本社)を経て現職。営業職員230名のサービス・業績を統括している。「私の仕事は、お客さまのもとへ何う営業職員を明るく元気にする事です」。

周囲の理解と助け合い

結婚を機に退職する女性がまだ多かった平成13年に、森は町田支社で初めて育児休業制度を利用しました。「制度の経験者がいなくて、手探りで進みましたが、上司や同僚の理解もありスムーズに復職することができました」。その後も活躍する森の姿を見て、出産後に復職する職員が増え、今ではそれが当たり前になっているといいます。

そして森は、次の目標へと向かいます。いつかやってみたくて考えていた業務職への職種変更です。業務職になれば、グループの運営全般を担うことになり、仕事の幅は大きく広がります。「育児をしながら責任の重い仕事ができるのか不安だった」という森ですが、「今がベストと思わず、常に効率化を考えています。書類や物の置き場所を統一することや、常にメモを残すことで仕事の共有化を徹底し、もしも自分が急に仕事を休むことになってもメンバーを信頼して任せられるようにしています。子育て中の人や介護の必要な家族がいる人など、いろいろな立場の人がいますから、お互いに助け合える雰囲気をつくるように心がけています。」と業務の効率化と共に、グループで助けあえる環境作りを行いました。そんな森がやりがいを感じるのは、グループのメンバーが目標を達成した時です。「お客さま対応の迅速化、事務レベルの向上など、各自が目標を定めています。目標を達成できたと報告してもらった時には本当にうれしく思います。」そして「今後のキャリアを考える人たちに、私のような働き方もあるんだと、選択肢の一つとして見てもらえれば」と話します。

20年間ずっと町田支社で働く森は、支社への愛情もひとしお。「私がさまざまな立場の職員をつなぐ架け橋となって、風通しが良く、絆も深い町田支社の素晴らしい伝統を受け継いでいきたい」と熱い思いを語ります。



森千春

町田支社 グループマネージャー

平成6年入社、一般職として町田支社に配属される。2度の育児休業を経て、平成24年、業務職に転向し現職に。現在は10名のメンバーのリーダーとして事務レベルの向上に取り組む。「『町田支社で働いてよかった』と言ってもらえることが私の喜びです」。

ダイバーシティ推進担当の声



人事室担当室長 相川恵美

当社ではこれまでも、営業部門では営業職員を統括する支部長を始めとした管理職が多く活躍しております。一方で事務部門では結婚・出産・育児を機に退職する職員も多く、女性管理職はほとんどいない状況でした。制度の制定や女性が活躍できる環境作りを進めたことにより、女性課長相当職が16%と増えています。しかし、まだまだロールモデルが少なく、会社としてサポートが必要です。そのため、職種別のキャリアセミナーや、個別キャリアプランの作成などの取り組みを進めています。仕事と育児の両立制度として、当社は子どもが小学校卒業まで取得可能な「育児による時間短縮措置」など、職員自身の状況に応じて選択できる制度が充実しています。今後は、更に上位職に就く女性管理職の育成とともに、全職種全職員がいきいきと働き続けることのできる環境づくりを進めていきます。

住友生命の平成25年度 ダイバーシティ推進関連受賞一覧

当社のダイバーシティ推進の取り組みが評価され以下の賞を受賞しました。

- ・ダイバーシティ経営企業100選 (経済産業省)
 - ・均等・両立推進企業表彰 ファミリー・フレンドリー企業部門 東京労働局長優良賞(厚生労働省)
 - ・第7回ワーク・ライフ・バランス大賞 優秀賞(公益財団法人日本生産性本部)
- ※ワーク・ライフ・バランス、キャリア形成に関しては48～49ページをご覧ください。

「子育て・子育て」

お客さまの人生と大切な人を守る生命保険会社として、親和性の高い社会貢献分野である「子育て・子育て」支援に取り組んでいます。子どもが本来もっている自ら育つ力(子育て)を応援すること、子育ての当事者だけでなく社会全体で子育てをすることを大切に考え、様々な視点から子育て支援事業を展開しています。



「未来を強くする子育てプロジェクト」

ロールモデルとなる子育て支援活動を全国に

住友生命では、文部科学省と厚生労働省の後援を受け、「子育て支援活動の表彰」を行っています。

これは、日本各地で行われている特徴的な子育て支援活動を表彰し、その活動を支援するとともに、ロールモデルとして紹介することで、他地域へ同様な活動が広がることを目指しているものです。平成25年度は、文部科学大臣賞と厚生労働大臣賞を含む16組を表彰いたしました。これまでに表彰した子育て支援活動は65組となります。

【第7回(平成25年度)未来大賞・文部科学大臣賞受賞団体】

— 特定非営利活動法人 沖縄ハンズオンNPO —

活動内容

平成21年ユネスコによって消滅危機言語に指定された琉球諸語「しまくとぅば」を次世代の子どもたちに継承するためのエジュテメント(教育・エンターテインメント)活動を行っています。具体的には子どもたちが地域の民話や神話発祥地を訪問し、それを紙芝居にまとめ、紙芝居型演劇オペレッタとして披露するなどの活動です。地域の伝統文化継承に、子どもたちからお年寄りまで集まって地域ぐるみで取り組んでいます。



受賞団体の声 (代表 安慶名 達也氏)

「しまくとぅば」には、年上の人に対する敬意や感謝の気持ちをあらわす言葉が数多くあり、そうした言葉を通じて、人との接し方や礼儀を学ぶことができました。言葉とともに沖縄の肝心(チムグクル)を学び後世に伝えていくことは、人としてあるべき生き方を受け継いでいくことでもあると思います。今回の受賞をきっかけにますます精力的に取り組んでいきたいと考えています。

全国の子育てひろばの支援を行っています

全国で約1,000箇所の子育てひろばが会員となっているNPO法人子育てひろば全国連絡協議会への支援を行っています。全国各地の子育てひろば運営の課題を解決するためコンサルテーション事業や、人材育成のための研修等を支援しています。ひろばコンサルテーション事業ではこれまでに全国80箇所の子育てひろばへ出向いて、それぞれの子育てひろばの抱える課題解決のため、より肌理細やかな支援をお届けしています。

ひろばコンサルテーションを受けた人の声

- ・スタッフ全員が集まってお互いの考えや想いを知り仲間のことをよく知ることができた
- ・仕事をしている時不安に思うことや対応に困った時の解決方法を聞くことができた
- ・スタッフ同士のつながりの大切さを改めて感じた



少子高齢化社会にプラスの発想転換

NPO法人あい・ぽーとステーションが実施している「子育て・まちづくり支援プロデューサー養成事業」を支援しています。この取り組みは少子高齢化社会をプラスに発想転換したものです。現在、日本では生産年齢人口の減少等による経済成長や社会保障の持続可能性に大きな懸念がもたれていますが、定年後の団塊世代の男性の経験知とキャリアを子育ての現場や地域で生かしていただくことで従来にならぬ新たな支援の形ができるのではないかと考えています。子育て世代を支えていただくとともに定年後の人生を地域の人々とふれあいながら豊かに過ごすきっかけとしていただきたいと思います。

子育て・まちづくり支援プロデューサーの声 (武部 寛聰氏)



右端が武部氏

今まで、会社と家の往復という生活パターンであり、主な関心事といえば、仕事に関することでした。自分自身気持ちに余裕もなく、社会・地域貢献は全くしてきませんでした。しかし、心の隅には、このままいいのか、何かやるべきことがあるのではないかと、自分に問いかけていたように思います。退職後、この講座を知ったとき「これだ!」と思いました。

支援が少ない分野への当社ならではの取り組み

子育て中の人文社会科学分野の女性研究者支援として「スミセイ女性研究者奨励賞」の表彰を行い、1人あたり最大200万円(2年間)の支援をしています。平成25年度は新たに11名の女性研究者を表彰いたしました。これまでに表彰した女性研究者は71名となります。人文社会科学分野の研究者は、理工分野の研究者と比べて、目に見える成果がわかりにくいと、社会的な支援が少なく、また周囲の理解が得られにくいという問題を抱えています。女性研究者の子育てと研究を取り巻く環境は、女性が働き続けるうえでの問題が濃縮されているとも言われています。研究費だけでなく、子育て関係費にも助成金を充てることができる本制度は他に類をみない取り組みです。

第7回スミセイ女性研究者奨励賞受賞者の声(井岡 瑞日氏)



私にとって、研究も子育ても、時に困難で孤独であり、その場にうずくまったことも何度もありました。けれども得られる喜びが大きいため、何とかこれまで続けていくことができました。本助成を糧に、我が子の成長に心穏やかに寄り添いながら、研究を続けていきたいと思っています。

私にとって、研究も子育ても、時に困難で孤独であり、その場にうずくまったことも何度もありました。けれども得られる喜びが大きいため、何とかこれまで続けていくことができました。本助成を糧に、我が子の成長に心穏やかに寄り添いながら、研究を続けていきたいと思っています。

新たな取り組み「スミセイアフタースクールプロジェクト」

学童保育等支援事業の全国展開を開始

住友生命では、平成27年4月に施行予定の「子ども・子育て関連3法」により変化する全国各地の子育て環境をより良いものとするための支援をしたいという想いのもと、今後ますます大きな社会的課題となるであろう学童保育等に焦点をあて「スミセイアフタースクールプロジェクト」を開始いたしました。現在、各市町村で「学童保育の基準」「事業計画」等を検討している段階にありますが、学童保育等のソフト面の向上のため、モデルとなるプログラム(出張授業)等の提供を全国の学童保育等を対象に行っていきます(実施にあたっては特定非営利活動法人放課後NPOアフタースクールへの助成により行います)。

いのちのプログラム「心臓外科医のシゴト」

スミセイアフタースクールプログラムとして「いのち」「健康」「未来」をテーマにした全国へのお出張授業を行います。平成26年3月に、横浜市の小学校において、いのちのプログラム「心臓外科医のシゴト」を試験実施しました。毎日のように人の生死に関わっている心臓外科医が先生となり、医師の日々の仕事や、医師が考えていること、「命ってなに?」といった内容で授業を行いました。「心臓はどんな音がするかな」と問いかけると、子どもたちは聴診器を使って自分や友達の心臓の音を確認、教室のあちこちで「聞こえた!」という元気な声が響きました。手術体験で本物の手術着に着替える時には、子どもたちの期待は最高潮に達し、マスクや手袋を身につけて、先生に教えてもらいながら真剣な表情で擬似皮膚を使った縫合を体験しました。参加した子どもたちからは、「お医者さんになるにはどうしたらいいのか」など次々と質問が飛び出し、非常に興味深く、楽しい時間となりました。

参加した児童の声



- ・いつもと違う放課後でたのしかった
- ・命のことがよくわかった
- ・本物の手術の道具を使って楽しかった
- ・6~8時間手術をやっているのですごいと思った
- ・皮膚の模型で糸をぬうことが楽しかった
- ・医者になるまでの道のりが知れてうれしい

プロジェクトホームページでの支援

「スミセイアフタースクールプロジェクト」サイトでは、プログラム実施希望団体の公募案内の他、多くの学童保育等の関係者の方に参考にしていただけるよう「プログラム」の様子をレポートや動画で順次紹介していきます。

また学童保育等の空き時間などに自由にご利用いただける「遊んで学べるペーパークラフト」類の提供や、子どもたちのあそびの世界を広げていただくために日本各地や世界のあそびの紹介等もしていきます。

プロジェクトホームページ

- ・「プログラム」紹介、公募、動画配信
- ・遊んで学べるペーパークラフト等の無償提供
- ・「日本のあそび」、「世界のあそび」の紹介

<http://sumiseiafterschool.jp>



HPで提供するツール例

CSR推進室長コメント



CSR推進室長 渡本 信樹

当社では志を同じくするNPO等の方々とともに子育て環境の整備に取り組んでいます。今後も多方面の方々のご協力をいただきながら、子どもたちの未来を強くする活動に取り組んでいきたいと思っています。